

西暦 2025 年 2 月 18 日

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業
研究経過／終了報告書／成果報告書

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業
研究利活用委員会 委員長殿

所属医療機関 国立精神・神経医療研究センター
申請者 柏木宏子

重度精神疾患標準的治療法確立事業（医療観察法データベース事業）において収集されたデータを用いて
行う研究について、
☐ 継続中につき、経過を報告します。
☒ 終了したので、結果を報告します（終了後の成果報告の予定 ☐あり ☒なし）。
☒ 終了後に成果を公表したので、報告します。

申請 番号	MTSA-006	研究 課題名	触法精神障害者に対する向精神薬処方に関する研究
研究結果（経過）： 2019 年 9 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日の間に退院した、統合失調症スペクトラム障害を対象とし、向精神薬の処方実態を明らかにした。また、クロザピン、持効性抗精神病薬注射剤、その他の抗精神病薬の 3 つのグループに分け、それぞれの入院期間や行動制限の有無の割合を比較した。抗精神病薬のうち、オランザピンが最も多く処方されていた。クロザピンと持効性抗精神病薬注射剤の処方率は、それぞれ 23.2%、24.9%であった。抗精神病薬の多剤併用の割合は 37.8%であった。3 つのグループのうち、クロザピン投与群は隔離経験率が最も高く、平均入院期間が最も長く、抗精神病薬多剤併用率が最も低かった。			
上記公開に際しての希望： ☒ すぐに公開してよい。 ☐ 年 月以降に公開してよい。 ☐ その他（ ）			
研究利活用委員会に未報告の研究成果公表実績（学会発表、論文など）： Koji Takeda, Hiroko Kashiwagi, Keisuke Takanobu, Ryotaro Kubota, Ryo Naoe, Yuji Yamada, Junko Koike, Toshiaki Kono, Yuki Kako, Naotsugu Hirabayasi. Current status and features of antipsychotic prescriptions in Japanese forensic psychiatric wards based on a forensic inpatient database. Neuropsychopharmacol Reports . 0; (0); 1-11. 2024 年 11 月			

※事務局記入欄	初回申請	2022 年 9 月 14 日	初回承認	2022 年 12 月 16 日
---------	------	-----------------	------	------------------